

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6  
サンコート新千葉102号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263  
発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター  
2011年1月10日発行 第59号 1部100円 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

# くろはら 総房

## 子どもの権利・参画をテーマに2011年がスタート! 「子ども力・地域力フォーラム」開催



日にち：2011年  
1月15日(土)  
時間：13:50~16:50  
会場：千葉県文化会館  
小ホール  
参加者：180人

未来を担う千葉の子どもたちが、心身ともに健やかに育つことは全ての人の願いです。そのためには、家庭や地域、学校、職場などが力を合わせて、子どもの立場に立った施策や子ども・子育て支援の活動をしていく必要があります。「子どもの立場に立つ」とは、大人が子どもを支配的な意識でのみ見るのではなく、権利の主体として認める立場に立つことです。たとえ幼くて、経験や知識や言葉が未熟であってもそれらは子どもの特徴であって、全身で様々なことを発信しています。

第一部 宮本みち子さんの講演  
子どもの社会参画先進国から  
ヨーロッパの取り組みレポート

### かつてない日本の子ども・若者の 社会からの退行という傾向

- \* 社会に対して初めからあきらめている。
- \* 心の悩みをもち、自分のことで精一杯。
- \* 社会生活上起きるコミュニケーションや人との関係づくりが極端に苦手。

ある大学生のNPOの調査で、自分が行動したり発言することで社会は良くなるか?という問いに対し、日本とスウェーデンの学生へのアンケート結果は、スウェーデンは80%がイエス、日本は20%がイエスであった。日本ではかなり深刻な社会からの退行傾向がある。

### 日本における若者施策の背景・若者の変化と課題



- \* 大学を卒業しても就職できず、失業や貧困になる若者が増加し、10代のホームレスも増加している。
- \* 若者の政治離れや、社会に背を向け、消費社会へ飲み込まれ、ITに取り込まれていく若者が増えている実態がある。
- \* 仕事をマスターする場が喪失し、家庭内や社会で若者の役割喪失がすすみ、社会的なトレーニングの場がない。
- \* 太いレールに乗れば安定的な人生を送れるという時代はとくに終わった。

2003年以降、こうした背景を受け、特に不利な条件をもった若者自律支援施策がすすんできた。子ども若者ビジョン(2010年7月)は、①シテイズンシップ(自ら行動する小さな市民)教育の推進 ②子ども・若者の社会参画 ③意見表明の機会の確保が盛り込まれ、大きな第一歩だが、実現への具体策の姿はまだ見えない。

### 若者に対する新しい認識



成人期への移行は大人になるための自立に向かっている移行と捉え、選択する力や自己決定できる力、参加・参画する機会のための情報提供・個々へのエンパワメントが必要となる。

また、若者が社会から孤立しアウトサイダー(社会に背を向ける)にならないためにノンフォーマル教育への期待がある。学校以外の実社会にある教育の機能や、子どもに対応できるツールを活用し、早期に社会の一員としてエンパワーをしていく。フォーマル教育(学校教育)だけでは労働市場の変化に対応できなくなっている。

### 海外における子どもの参画とシテイズンシップ施策

欧州委員会のユースレポート「2001年若者に関する白書」では、①若者の積極的なシテイズンシップ ②経験分野の拡大と認識 ③若者の自律を促す とし、0歳から大人になるまで若者の全体をアプローチできるように、伝統的なセクターの境界を取り払い、包括的な支援をし、若者の生活条件と成人期への着地のチャンスが施策の前面に出ている。

スウェーデンでは①社会の担い手として子ども若者を社会参画させている。②民主主義を体感させる豊富なしくみがある ③若者の声を吸い上げる多くのしくみがある ④若者団体での活動が経歴として認められる。⑤社会に出て、また大学に戻ることがいつでも出来る流動性の高さがある。

イギリスでは、ヒア・バイ・ライトという、子ども若者参画のためのスタンダードな枠組みがあり、各組織の参画をチェックし、あらゆる機関・レベルで参画をすすめるために、具体的な戦略・知識と技術・リーダーシップのとり方を定式化している。(講演記録より抜粋 文責中村)

## 第2部 フォーラム

子どもが育つ地域をつなぐ。  
今、子どもの現場から見える「リアル」

### ●パネリスト

前北 海さん

(NPO法人まち支援センター理事)

嶋村仁志さん

(レバークむさしのプレリーダー)

松島隆一さん

(千葉市子ども企画課 課長)

### ●コメンテーター

宮本みち子さん (放送大学教養学部教授)

### ●コーディネーター

岡田泰子さん

(子ども劇場千葉県センター理事長)

嶋村仁志さん

## 体験の貧困と大人のコミュニケーション不足

プレリーダーとして、冒険遊び場を中心に、子どもが遊ぶ場づくりの仕事をしています。

2002年、イギリスのウエールズで、世界で初めて政府が「子どもの遊びに関する政策」を発表した。大臣は記者会見で、『今の子どもたちは確かに食べるものはある、寝るどころもあるが「経験の貧困」に苦しんでいる』という話をしたという。

体験ってすごく危険な言葉だと思っっている。体験が大事だというと、体験をやらせなくちゃ さあ！キャンプだという話になる。今の時代に一番足りないことは、自分で決めて、自分でやってみる体験ではないでしょうか。大人のコミュニケーション不足については、いかに迷惑にならないように、相手の

空気を読み、絶妙なタイミングを図るコミュニケーション能力はもしかして優れているかもしれない。疑問を持ちながら考えた方がいい2つのキーワードとしてあえて出した。

「うちの子はトトロを100回観ました」というお母さんがいますが、観るのは1年に1回くらいにして99回は外で遊んでほしい。

(宮崎駿・アニメ作家)

子どもにとって、遊びとは自分の生きていく世界を知る「とびら」。子どもが自由な表現をする時は、安心感がある時で、子どもが遊べるまちは、子どもが育つまちなのです。

ところが現状は、公園の看板には遊びの注意や禁止事項が書いてある。また、子どもの声がるさいという大人もいる。知っている子どもの声はうるさい感じがしますが、知らない子どもの声はうるさいですね。だからこそ、子どもと大人が知り合えるまち、子どもの育ちをまちづくりから考える大人と、拠点となる社会資源が必要なのです。



## 今が楽しい！ということが子どもの未来

前北 海さん

不登校やひきこもりの経験があり、今はサポーターとしてフリースペースや子どもと親のサポートセンターで、子どもや親をサポートをしている。今の子どもたちは疲弊していると感じている。元気がなくなり、ぶつかり合いが減って、生ぬるく悩んでいる。十数年前は自分も含めて、大人への怒りや不信、反抗心があり、学校に行かないという選択を、自らしていたと思う。

大人が子どもに与える活動は、実は子どもから力を奪っているのではないか。子どもがしたいことを応援するということが必要だ。悩みがあっても子どもが考える時間や、子どもを信じて任せることが大事。今が楽しいと、「明日もいいことがあるか

もしれない」と、未来が見える。辛いおもしろい未来が見えない。大人は「楽しいだけいいの？」と言わないでほしい。

2009年9月にフリースクール全国交流合宿で、「不登校の子どもの権利宣言」を発表した。13条からなり、特に、第5条の「ありのままに生きる権利」：私たちがひとりひとり違う人間である。大人は子どもに対して競争に迫り立てたり比較して優劣をつけてはならない。歩む速度や歩む道は自身で決める…。は、大切な一項目。

不登校のほぼ100%が自分の道を通す社会復帰している。子どものサポートとして、親の不安も考え、その子の悩みを奪わないように、サポートをしたい。



松島隆一さん

子どもをただ守るだけの存在ではなく、まちに生きる市民と位置づけ、子どもが主役の町と未来をつくっていく

千葉市は、平成27年度をピークに人口減少に転じる。人口減少・超高齢化の影響は、まちの活力や行政サービスが低下し、現役世代の負担増となる。子育て世代が住みたいまちにすることが「都市」の生き残りに重要となる。千葉市の子どもの意識調査から、意見を言う場とそれを受け止める社会システムがあれば、子どもの参画が促進されることが明らかになった。

千葉市の「夢をはぐくむ子どもプラン・後期計画」では、時代を担う子どもたちの参画の推進を基本目標に掲げ、①市内4箇所子育てフォーラムの設置 ②親や教師でない信頼できる大人がいる身近な相談場所「こどもカフェ」(仮称)の設置等を計画・実施している。

わが町の子育て応援宣言(平成22年1月)では、子どもの参画をすすめる、子どもが希望を持てるまちをつくることとした。子どもが創り運営するまち「子どものまちCBT」は、すでに3年の実績があり、社会への参画も学ぶ場になっている。他、こども大学や幹部職員とのランチミーティング、こどもの力ワークショップ、市長や専門家との議論の場であるこどもの力フォーラム、こども議会等々、こどもも参加・参画の場が増えてきている。(記録より抜粋 文責:中村)

## 宮本みち子さんのコメント

人が苦手・コミュニケーション不足は子どもが悪いのではなく、社会が生み出したもの。千葉市の子ども企画は全国のモデルにしてほしい。ロンドンのある地域で、子どもの声を集めたところ「毎日がたいくつ」だという。子どもたちが参加して何をしたらよいか意見を言い合い、荒果てた公園をサッカー場にした。子どもたちの意欲がよみがえり、地域を改善した。

## 岡田泰子さん

子どもとあそび、子どもと居場所、子どもと施策は、人がいないとつながらない。大変なことや壁を感じることもあっても、子どもに寄り添い、子どもの味方であるフアンリテーター、コーディネーターとして力をつけていきたい。

## 資料紹介

「ピア・バイ・ライト(子どもの意見を聴く)の理念と手法」若者の自立支援と社会参画を進めるイギリスの取り組み  
(萌文社2009年)

「子どもの権利・参画」を主とした新しい活動を開始!

## 「子ども白書ちば～子どもの権利・参画～」を完成!



詳細なデータや分析、社会動向を網羅したような白書ではありませんが、NPO 発で、身近な学習や交流でのハンドブック的に使っていただくことをイメージしてつくりました。主に、千葉県内の民間で子どもの育ちに関わる活動をしている方々と団体 40 名に寄稿をお願いしました。子どもの立場に立って代弁し、権利を守る活動をする、障害がある子どもと一緒に活動することで見えてくるものがある、地域の中で子育て広場をつくる、子どもたちが思いっきり遊べること、表現できることの大切さ、大人として地域でどんな働きかけができるのか…。 “子ども”を切り口に、対象も手法も異なる団体からの発信は、実感と経験に基づいたまさに地に足のついた内容です。

子どもの現場からの寄稿では、多彩な活動を、子どもと権利、子どもと居場所、子どもと家庭、子どもと学校、子どもと体験の項目に分けて紹介しています。地域で行われている子どもの参画への様々なカタチを紹介することができました。参画した子どもたちの様子、大人の関わり方など、ひとつひとつが貴重な実践事例になっています。

### 目 次

「子どもの権利条約」第3回政府報告書と所見	2
子どもが育ちうる千葉県の未来をつくろう	4
子どもの権利擁護の取り組みについて	7
「安心して、自信をもって、自由に生きる権利を子どもに伝えるCAP」	8
障害のある子の人権状況について	10
「対話」でめざす犯罪被害者と非行少年の立ち直り	12
する権利・しない権利	14
子どもが安心して過ごせる学童保育をめざして	17
がつがつ遊ぶ子どもたち	19
チャイルドラインにかけてくる子どもの声を社会にとどけたい	20
乳幼児子育て支援をしながら、もう一つの支援は	22
地域でネットワークを結んで子育て支援を	24
明るく元気、楽しいPTAに	26

『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』	28
「子どもの権利・参画」推進のため学校現場から政策提言	30
子どもも大人もみんな仲間だよ	32
「運動が苦手な子の教室」でゆっくと子どもと向き合って	34
「あそびの大切さ」に気付くこと	36
「自分の責任で自由にあそぶ」がモットーのプレーパーク	38
表現の力を信じて「チャレンジミュージカル」	40
病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物」事業	42
参画事例	43
社会参加	46
子どもまつり	54
キャンプ	64
ハローウィン	79
文化祭	80
子どものまち	84
資 料	

(白書についての詳細情報や 白書ご希望の方は、子ども劇場千葉県センターまで連絡ください)



## 「子ども力・地域カフォーラム」の開催

2009年11月に「チャイルドライン全国フォーラム in 千葉」での成果をうけ、子どもの権利、参画の推進を目指し「子ども力・地域カフォーラム～子どもが育つ地域をつなぐ。今、子どもの現場から見えること～」を2011年1月15日(土)に開催しました。地域における「子どもが育つコミュニティづくり」を願い、日ごろ活動している人たちが一堂に会し、盛況のうちに終了しました。地域の様々な方法で子どもの育ちと権利の実現に係わっている方々と知り合うことができました。

このフォーラムは、チャイルドラインの関係者にとっても、子ども・若者の現状の深刻さや施策を知る機会となり、チャイルドラインの活動で、また、住んでいる地域で、子どもたちにどうかかわり向き合っていくのかを学ぶことができました。

(独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成「子どもの育つコミュニティ構築事業」)

電話による傾聴ライン チャイルドライン千葉・ママパパラインちばを応援する

## 「橋本のぶよ チャリティーコンサート」を実施



日時：2011年1月15日(土) 18:30～20:00

場所：千葉県文化会館小ホール 参加者：120人

「アメージング・グレイス」で始まったコンサートは、橋本のぶよさんの美しい声が耳に心地よく響き、子どもや平和へのおもいなどのメッセージも伝わってきました。「カントリーロード テネシーワルツ イマジン ハッピーバースデー…」と、豊かな歌唱力で様々なジャンルの歌を堪能し、橋本さんのオリジナル曲「MY RIGHTS ～子どもの権利条約」は、子どもの権利条約の条文を歌にしたもので、私たちが是非覚えてたいステキな曲でした。「エーデルワイス」はお母さんが、「翼を下さい」では、お父さん方が舞台上がりいっしょに歌いました。心も体も温くなったチャリティーコンサートでした。



## 鑑賞と表現は自転車の両輪のごときもの

### ◆人間は何のちからで成長するか

子どもはマネをしながら成長する。“おもい”が表現されているのを、ただ“見る”のではなく“見入る”、ただ“聞く”のではなく“聞き入る”という積極的な意識化がなされることによって、経験活動へと発展し、必ず表現活動へとつながっていく。これは、自転車の両輪のごときもので、表現として出ていく時に子どもは成長、発達する。自転車と同じく両輪のバランスが大事。

### ◇人間が豊かに生きるための鑑賞と表現の一体化の目的は

- ①前向きに生きる力を養うため
- ②情緒の安定のため
- ③自身の身体調整力獲得のため
- ④自信を獲得し、想像力と創造性を養うため
- ⑤社会性、人間関係を豊かに発達させるため



◆子どものためだからって、観念的、教育的にしないでほしい。“Just for Fun”に！子どもより先に親や先生が笑うような舞台でなくては意味がない。でもつまらない舞台だってある。そんな時、かつての大阪船場のだんな衆のように、アメリカのボードメンバーのように、懐深く受け止め「次にはおもしろいものみせて！」と次につないでほしい。それを限りなく組織的にやっているのが子ども劇場だ。

(12/14 演出家 太宰久夫さん来葉！おおいに語る！  
 於：千葉市文化センター 第3回子ども文化地域コーディネーター講座 参加者 45人)

# 芸術を活用した子どもの体験活動

参加者:220人  
 子どもの自主性や社会性を育む

2010年1月/23(祝)  
 千葉市子ども交流館  
 「Qibal」(きぼる内)  
 10:00~17:00

ワクワク・ドキドキの1日

## 子どもの舞台芸術体験ひろば inちば(子どもゆめ基金助成事業)

### ◆今年度めざしたこと◆

- ①子どもがより主体的に参加でき、子どもの自主性や社会性を引き出し育む舞台芸術体験作り。
- ②行政・地域の連携を深める。

### ◆子ども自主性や社会性が育つ活動であったのか 子どもの様子や姿◆

「わからなかったら、聞いてみようね」と言うと「お願いします」と手が挙がった/きょうだい、友だち同士、わからない子に教えあう姿/全員が前に出て発表することができた等、自分から聞いたり、教えてあげたり自然に協力することができた。時間がたつにつれて子どもたちがよく声を出すようになった/はじめはみんなの中に入れて戸惑っていた子が、最後は笑顔になっていた/終わった後もすぐに帰らず何度も切りあいを繰り返しやっている子もいた/等、新鮮な発見と興味関心が高まり、体験を通じて心を開き変化していく姿が見られました。

### ◆成果◆

- ①プロの講師に芸術を活用したこの体験活動は子どもの心を開き、ワクワクドキドキするような1日となり、満足感や達成感を味わい自信につながりました。
- ②行政との連携や子どもに関するネットワークの広がりにより、子どもへの広報周知・募集、専門性をもった大人の体制づくりができ、効果を上げることができました。来年度実施への期待も高まっています。



### クラウンメイクをしてクラウンに変身しよう！

<YEN TOWN FOOLS びり>

参加数：6人

内容  
 ・クラウンメイクをプロのクラウンから教えてもらう。  
 ・クラウンの動きを体験する。

感想  
 ・かお作りがたのしかったです。  
 ・初めての経験ですごく楽しかったです。  
 ・おとすのがもったいなかったです。  
 ・むずかしかったけどたのしかったです。

### おやこでミュージカル体験



<イツフォーリーズ>

参加数：35人

内容  
 3つのグループに分かれ、それぞれ「チキチキバンバン」の歌のイメージを出し合い、物語のあるダンスに仕立て発表。

感想  
 ・まさか自分でミュージカルを作るなんてびっくりした。  
 ・めっちゃおもしろかった。自分たちで作ったのが達成感あり。  
 ・おもしろかった。またやりたい。  
 ・すごく楽しかった。発表したときも楽しかった。  
 ・自分たちで考えたストーリーを演じるのは頭と体のよい運動になり楽しかったです。



### バルーンであそんじゃおー

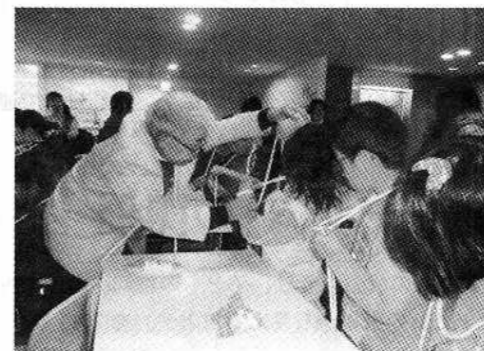
<YEN TOWN FOCUS ブッチィー>

参加数：111人

内容  
 クラウンブッチィーの軽妙なトークを聞きながら風船の作り方を手順良く教えてもらい、3種類のバルーンアート作品(ねずみ・花・弓矢)を子どもたちがトライして作り上げる。

感想  
 ・わかりやすくて楽しかった。家でも作ってみたい。  
 ・ねずみのまわすところがむずかしかった。  
 ・ふうせんでいるの、ななものをつくるのができてよかった。  
 ・じょうずにできてよかった。  
 ・まるくするのがむずかしかったけどたのしかったです。

### マジックであそぼう！

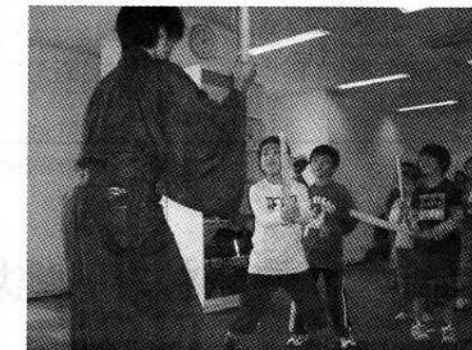


<ともしび音楽企画>

参加数：59人

内容  
 3つのマジックの種を明かし、実際にやってみる。みんなに披露する。  
 ・割り箸  
 ・紙コップを使ったボール貫通  
 ・ロープぬけ2種

感想  
 ・楽しかった。おもしろかった。できてよかった。  
 ・おもしろいからみんなにみせたい。  
 ・なかなかできないのがあったけどできたときうれしかったです。  
 ・おとうとおしえながらやってたいへんでした。  
 ・むずかしくてできないのもあったけどたのしかったです。



### チャンバラ教室

<劇団潮流>

参加数：28人

内容  
 ・あいさつ、講師紹介。  
 ・剣の心得を読み上げ復唱する。  
 ・新聞紙の剣を作る。  
 ・基本の技を2人一組になり練習する。  
 ・テストをし、合格者は免状(初級、中級)をもらう。

感想  
 ・はじめはわからないことがあったけど、いろいろ分かってよかったです。  
 ・チャンバラっていうのはおもしろいと思った。  
 ・すこしつかれた。予想以上に楽しかったのでよかった。  
 ・中もくろくめんきょにいけてうれしかったです。



2010 年度もたくさんの笑顔に会えました！

## 病気と向き合う子どもが笑顔になる贈りもの事業

★ 継続するための大きな課題は、安定的な「資金」です ★

- 千葉県遊技業協同組合「夢まるふぁんど」助成  
主催：子ども劇場千葉県センターで県内3箇所実施
- 独立行政法人福祉医療機構「先進的・独創的活動支援事業」助成  
主催：子ども劇場全国センター  
実施団体：子ども劇場千葉県センターで県内1箇所実施

長期入院している子どもたちに、病院内での生活に笑顔であふれるひと時を届けたい！付き添っている保護者も、医療にあたるドクターも、看護師さんも、いっしょに笑える楽しい空間をつくりたい！と始めたこの事業は、今年で4年目になります。病気の時でも健康な時でも、すべての子どもたちにとって「子どもの権利条約31条・子どもの文化権の保障を実現する環境づくり」を目指すのがこの事業の趣旨であり、子ども劇場千葉県センターのミッションでもあります。そのミッションが実現している瞬間を感じる「子どもの笑顔」でした。

### 千葉県こども病院

日にち：2010年8月25日（水）

会場：4F 東病棟、外来ホール

参加者：153人

作品：「ともしびパネルシアターコンサート」  
(ともしび音楽企画)

4Fの病棟では血液疾患の子どもたちが入院中、みんなかわいい帽子をかぶっての参加。点滴をしている子どもたちもなめちゃんの歌声や、パネルシアターに徐々に集中していました。初めは小さい声で歌っていた子どもたちも、笑顔と大きな声で反応し始め、付添いのお母さんたちも始終笑顔。会場全体が楽しさや優しい雰囲気包まれました。

### 国立国際医療研究センター 国府台病院

日にち：2010年10月19日（火）

会場：院内小学校・中学校教室

参加者：83人

作品：「アンディ先生のマジックショー」  
(マジックファクトリー)

鳩の登場で子どもたちは大いに盛り上がりました。会場の中にいる子どもたちは参加型のマジックに積極的に手を挙げ、アンディさんのサポートでマジックに挑戦したりしていました。廊下から見ていた数人の子どもたちも中の様子を気にしながら参加し、公演が終了してもアンディさんやスタッフを囲み話がつきない様子でした。

### 国保松戸市立病院

日にち：2010年10月6日（水）

会場：小児医療センター内会議室・病棟訪問

参加者：43人

作品：「びりとブッチイのクラウンシアター」(着い企画)

今回初めて実施することになった病院でした。「今日はいったい何が始まるのだろ」という期待感を持って子どもたちが待っていてくれました。びりとブッチイが創り出す世界は思わず笑ってしまうような、心温まるもので、見る人すべてを幸せにしてくれました。病室から出られない子どもたち一人一人に、その子のためにだけの風船をプレゼンしました。

### 独立行政法人国立病院機構 下志津病院

日にち・会場：2010年11月10日（水）

会場：筋ジストロフィー病棟プレイルーム・小児科病棟

参加者：70人

作品：「びりとブッチイのクラウンシアター」(着い企画)

プレイルームではベットのままで参加している子、病状にあった車いすでの参加など様々な状態に対応するため、病院のスタッフの協力で公演の場所や、置く位置を決めました。ベットのまま見ていた子が目で表現したり、体位を変えてもらったりして最後まで見ました。呼吸器をつけた患者が「たのしかった」と、一生懸命口を動かして伝えてくれました。

### 子どもたちや保護者の声や様子

- ・ひよこの歌がたのしかったし、ミッキーの歌も楽しかったしおもしろかった（4歳）
- ・ぜんぶおもしろかったです。また見たいです（8歳）
- ・楽しんでる様子が映像のように移り変わり、心を開いていく様子が手にとるようにわかった。
- ・たくさんのお友達と一緒に歌を歌ったりして、気分がかわってとてもいいと思う。大きな声を出して笑ったり体を動かすことができ楽しい時間を過ごせました（保護者）
- ・日常では辛い処置が多い分、非日常の楽しい出来事は余計楽しい経験として心に残り支えになると思う。（保育士）
- ・病院にいることをわすれていました。（保護者）



### 「病院の子どもたちのための憲章」

子どもたちは、年齢にあったあそび、レクリエーション、及び、教育に完全参加すると共に、ニーズに合うように設計され、しつらえられた、スタッフが配属され、設備が施された環境におかれるべきである。

(1988年、オランダのレイデン「第1回病院の子どもヨーロッパ会議」で合意)。第7条より抜粋

※この事業は、長期入院している子どもたちに、クラウン、マジック、人形劇、落語等、プロのパフォーマーによる小作品を病院(小児病棟)へ届け、子どもたちのとびっきりの笑顔や喜びの音が聞こえる楽しいコミュニケーションの場を創ること、合わせて付き添う保護者もほっと安心できる時間を創ることを目的としています。千葉県ではすでに4年間の実績があり、また、子ども劇場全国センターが全国的にも展開し、全国の病院にも届けています。

# 「子ども劇場千葉県センターとの出会い」

## 私からのメッセージ

ちばNPO月報  
11/23~12/23  
12月1日は  
「NPOの日」

千葉県環境生活部県民活動・文化課 NPO 法人室 主査 菅谷直人

私は、本年度4月から県民活動・文化課でNPOに関するイベント・普及啓発・計画関係等の業務に携わっています。赴任当初は、NPOに関する知識がほとんど無かったため、NPOの基礎から行政とNPOとの関わり方等について毎日が勉強の日々でした。そのため、「NPOの日普及イベント」の担当として業務に関わった当初は不安で一杯でした。しかし、スタッフ会議に参加させていただき、直接センターの方々とお話しをしていくにつれ、不安からイベント成功に対する期待へと変わっていくようになりました。

「NPOの日普及イベント」については、本年度、県直営事業から補助事業に変更し、この補助団体として子ども劇場千葉県センターが選考され実施することとなったものです。今回、センターが企画したイベントは二つで、一つは、12月1日の「NPOの日」に実施した県内24箇所のJR駅頭でのNPO団体による一斉の啓発用リーフレット配布で、残り一つは、12月4日に実施した「NPOのガイドによる県民ウォーク」でした。私も、両イベントに参加しましたが、リーフレット配布については、80近い団体が参加したこともあり、多くの県民にNPOの存在をアピールできた良い機会であったと感じました。また、県民ウォークについては、県内16地域で同時多

発的に実施し、180名近い県民の方々が参加するなど、県民の方々がNPOに身近に接することができたすばらしいイベントであったと感じました。

今回のイベントは、子ども劇場千葉県センターとしても初めての試みであったため、リーフレット配布団体やガイド団体の取りまとめ、ウォーキングの参加者の募集などに大変苦労されたことと思いますが、今回のイベントを通し、今まであまりお付き合いの無かった団体との繋がり、つまり、分野を超えたNPO間のネットワーク作りのきっかけに繋がるのが期待されるなど団体としてもメリットがあったのではないかと感じています。一方、県としても、NPO自らが県民に活動を広報・普及する日として、平成21年度より12月1日（NPO法施行日）を「NPOの日」と定めていることもあり、今回の取組みは、この「NPO自ら」という点について、昨年度より一歩前進できたのではないかと考えています。最近「新しい公共」の担い手としてNPOへの期待が高まっている中、今回の企画を通し、県内の多くのNPOが自ら県民に活動をアピールしていく“しくみ作り”が重要であることを再認識したと共に、今回の業務を通して、子ども劇場千葉県センターの皆さんと知り合えたことに感謝いたします。

## 『まちの文化を紡ぐ 多彩な人々』

NPO まちアート・夢虫 会員 さとう ももよ

## NPOではたらく人



「ゆ・め・む・して青虫のこと？」なんていたずらっぽい目であなたに尋ねられると私は嬉しくてそわそわしてしまう。

「うーん、そうなのです」いい名前でしょ。

私たち「夢虫」の仲間は、9年前から、ここ船橋市の西の片隅、昔は葛飾といわれた歴史的由緒ある地域でこのまちの文化を大切に、楽しいまち、豊かなまちとして次代へとつないでいこうとNPO活動を展開中です。

創造教室、ワークショップ、鑑賞会、講演会、地域文化支援事業などが毎年積み重ねられています。今や11月の西船橋駅前のクリスマスツリー点灯式合唱隊はまちの風物詩としてちよっと有名。

古作「夢虫BOX」は、子どもからシニアまでが、美味しい葉っぱをいっぱい食べて成長する蝶の幼虫たちのように創造活動拠点となっています。「いつかはきっと・・・」と夢見ながら。

さて、最近の「夢虫」ニュースとしては、2009年には劇「トレモスのパン屋」を上演。原作は小倉明さんの童話。大好評でした。2010年には文化・芸術創造活動の前提ともなるNPO活動や市民活動に理解を得るための「東葛地域・市民活動フェスタ in 船橋」を企画提案し、千葉県に採択され、同実行委員会(会長=清水光明)として取り組みました。

テーマは「笑って 元気に ひとまちも」

広く市川、浦安、鎌ケ谷、松戸、船橋の5市の行政、NPO、各種団体、企業、個人が協力し、多彩なイベントを実施することができました。行政の担当職員がパネリストのフォーラムやNPO団体のパネル展示、パフォーマンス。映画「アンダンテ稲の旋律」上映。ふれあい活動広場。ミニ講座。お寺でシンポジウム&コンサート。最終イベントは中山競馬場でのフェスタでした。チーパくんも出演し、大人気。総計5,820名余が参加してくれました。市域を超えた交流からさらなる創造協働の芽ばえが期待されるものとなりました。

そう、夢虫とは蝶の異名なのです。青空に多彩な蝶たちが乱舞する姿を想像してみてください。地上は花畑があり、林もあり、昔川だったところは埋められても台地の絞り水がちよろちよろ道ばたに流れ出ていたりする。都会であっても生き物たちが生息できる多様性に富んだ自然環境が共存するまち。ターミナル駅の地の利は、文化交流と協働創造の未来をつくりだす場所です。

特定非営利活動法人まちアート・夢虫は、俳優、演出家である理事長の半田晶子を中心に、文化創造活動を力強く進めてきました。今後も多彩な人びとと豊かな関係を生み出しながら、笑って元気に地域文化発信をしまります。



NPOの日普及イベント  
NPOのガイドで千葉をもっと楽しもう  
「県民ウォーク」

# 子ども文化最前線

## てくてく歩いて 千葉再発見！

12月4日(土)、県内16カ所で一斉にNPOのガイドによるウォーキングを楽しみました。オレンジ色の「NPOの日」ののぼり旗を掲げ、NPOをもっと知ってもらうために、総参加者約180名が、千葉県内を同じ時間、てくてく歩いていると思うとワクワクしてきました。どのコースも探究心をくすぐる魅力溢れる内容でした。

地域	NPOガイド団体	企画
我孫子市	NPO法人ACOPA	白樺派文人が愛した北の鎌倉「我孫子」散策
船橋市	NPO法人船橋レクリエーション協会	船橋市における太宰治ゆかりの地めぐり
船橋市	NPO法人まちアート・夢虫	あつと驚く！アート発見まち歩き
市原市	市原米沢の森を考える会	古墳めぐりと枯葉の小道ウォーキング…頂上では360°のパノラマ景観を楽しんで…
八街市	NPO法人健康・医療・福祉・千葉	八街の桜並木ウォーク
佐倉市	佐倉城址公園ボランティアの会	すばらしい紅葉の見頃 佐倉城址歴史ウォーク
佐倉市	NPO法人まちづくり支援ネットワーク佐倉	下総の守護大名千葉氏の居城「本佐倉城」跡歴史ウォーキング
酒々井町	酒々井ふるさとガイドの会	歴史の町酒々井を歩く 酒々井宿と戦国時代の本佐倉城跡
印西市	印西ふるさと案内人協会	いんざいぶらりまち並み散策と木下骨董市
栄町	のらりくらり健康ウォーキングの会	先人の思いをたずねて～成田道を歩こう～
香取市	NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会	佐原町並み観光案内
富津市	富津市NPO協議会	お宝発見！！新舞子海岸ビーチコーミングウォーク
鴨川市	NPO法人大山千枚田保存会	里山のんびりウォーク
南房総市	白浜城山道を活かす会	さわやか里見古道ウォーキング
館山市	青木繁《海の幸》誕生の家記念碑を保存する会	青木繁が《海の幸》を描いた神話の漁村めぐり
館山市	NPO法人安房文化遺産フォーラム	戦争遺跡「赤山地下壕」ピースウォーク

「船橋市における太宰治ゆかりの地めぐり」に参加して(参加者19名・スタッフ11名)

特定非営利活動法人船橋レクリエーション協会のみなさんのガイドで、太宰治が療養のために1年3か月船橋に住居を構え、愛人の初代と生活しながら執筆していたゆかりの場所9カ所を参加者の皆さんとおしゃべりしながら、ゆつたりと5kmの文学ウォークです。

太宰治の生活圏を辿る行程は、驚く程の細い路地を巡る道のりです。初めての場所で、まるで街探検。その間、ガイドスタッフが、分かりにくい道を覚えようとメモをとる参加者に教えてくれたり、盲腸炎が悪化し鎮痛剤中毒となり、薬を買うために借金をしながら太宰文学の円熟期を過ごした船橋の生活を話してくれたりしました。

太宰治文学の研究を目的としたものでなく、船橋を「太宰治文学発祥の地」にしたいというNPOガイドさんの街づくりに視点を置いた思いも伝わってきて、船橋での太宰治の足跡を肌で感じる事ができました。

NPOの団体に初めて出会った参加者も多く、もう一度来たいとの声が多数ありました。またNPOのガイドさんが新鮮で、千葉のこともっと知ることができたさわやかな一日となりました。筋肉痛も伴いましたが・・・

(子ども劇場千葉県センター 棚田純子)



▲高層ビルを背景に、太宰治が執筆活動をした大正10年創業当時のままの建物「玉川旅館」

### 編集後記

2011年の幕開けです。お正月は箱根駅伝を観るのを楽しみにしています。今年も仲間を信じ、襷を繋ぐ、人が作る様々なドラマが展開されました。同じように活動の現場で、人と関わることから生れる感動や達成感を今まで数多く感じてこられたことでしょう。そこには、子どもたちの笑顔があります。すべての子どもたちが、健やかに笑って育つ地域社会を様々な人と考えていきたいと思っています。(棚田)

